

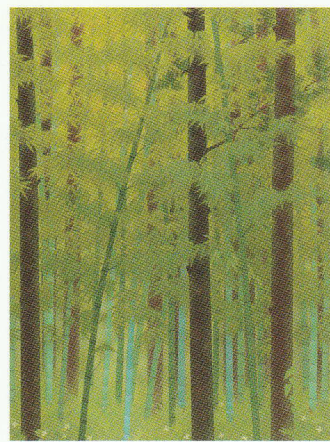
# 生誕110年 佐藤太清展 水の心象

Sato Taisei: Imagery of Water  
Commemorating the 110th Anniversary of the Artist's Birth

自然から感受したイメージを独自に解釈し、詩情豊かな世界観を創出、花鳥風景画を確立した日本画家・佐藤太清（1913～2004年）は、2023年に生誕110年、2024年に没後20年を迎えます。太清の人生は、母の胎内にいるうちに父が病没、誕生直後には母も亡くす体験から始まりました。幼少期に孤独から逃れるように野山を歩き、そこで見たものを描くひとときが絵の道に進む端緒であったと、後に太清は語っています。

故郷・京都府福知山市に流れる由良川は豊かな恵みをもたらす一方、水害を発生させる暴れ川としても知られています。穏やかな自然が時に様相を変える瞬間を太清は何度も目撃したことでしょう。太清の描く絵画には、自然の美しさや生命感が込められる一方、恐怖や逃れられない死といった重層的なイメージがみられ、独自の画風が形成された礎には、幼少期からの自然との関わりが影響したと考えられています。本展は、太清が生涯にわたり描いた「水」に関連する作品に着目。画業70年における作品を概観しながら、水の心象表現をたどります。

また、初の試みとして、画室に遺された全絵具をサンプル化した1000色を超える色相図「太清の絵具棚より」を会場に設置。太清自身が調合した多彩なグレーに注目しつつ、画家の眼にせまる展覧もみどころとなっています。



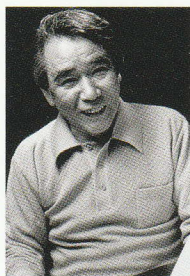
《竹林》1949年  
（福知山市佐藤太清記念美術館）



《風騒》1966年（日本芸術院）

## 佐藤太清 略歴

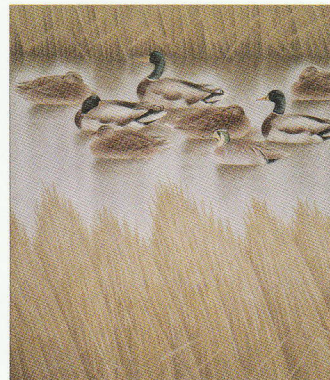
- 1913年 11月10日京都府福知山市に生まれる
- 1933年 兄玉希望に師事
- 1943年 第6回新文展において「かすみ網」初入選
- 1947年 第3回日展において「清韻」特選受賞
- 1952年 第8回日展において「睡蓮」特選・朝倉賞受賞
- 1966年 第9回新日展において「風騒」文部大臣賞受賞
- 1967年 前年に出品した「風騒」で第23回日本芸術院賞受賞
- 1980年 日本芸術院会員に就任
- 1985年 日展理事長に就任
- 1988年 文化功労者として顕彰される
- 1992年 文化勲章を受章
- 2004年 11月6日逝去 従三位に叙せられる  
平成16年度区民文化栄誉賞（板橋区文化・国際交流財団）、  
区政功労表彰（板橋区）が贈られる



撮影：秋山庄太郎  
©秋山庄太郎写真芸術館



《睡蓮》1952年（福知山市佐藤太清記念美術館）



《旅鳥》1985年（株式会社常陽銀行）

## 「邂逅の響き — 佐藤太清 中田喜直」

日時：5月13日（土） 時間：午後5時30分から6時30分（予定）  
出演：鎌田滋子（ソプラノ・日本オペラ協会会員・アイメイト音楽家クラブ主宰）  
中田 健（ピアノ・第1回ウィーンオペレッタコンクール最優秀伴奏者賞受賞）  
会場：2階展示室  
入場料：無料（展覧会の観覧料は別途必要） 先着30名様（午後5時より整理券配布予定）

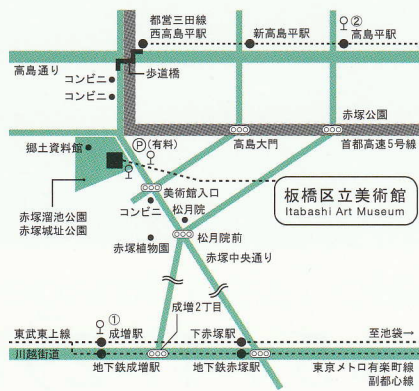
## 「佐藤太清の絵画 — 水の心象」

日時：5月20日（土） 時間：午後2時から3時30分（予定）  
講師：安田晴美（美術史家・福知山市佐藤太清記念美術館顧問・佐藤太清 孫）  
会場：1階講義室 聴講無料 先着40名様（午後1時30分より整理券配布予定）

ミュージアム  
コンサート

記念  
講演会

次回巡回日程 八幡浜市美術館（愛媛県）／令和5年7月1日（土）～8月20日（日）



## 板橋区立美術館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27  
tel 03-3979-3251  
http://www.itabashiartmuseum.jp/

交通案内

- 徒歩：都営三田線「西高島平駅」下車約14分
- 路線バス：1時間に1～2本程度 所要時間約10分
  - ①東武東上線「成増駅」北口2番のりば「増17区立美術館経由 高島平操車場」行き「区立美術館」下車  
\*東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」も利用可（5番出口）
  - ②都営三田線「高島平駅」西口2番のりば「増17区立美術館経由 成増駅北口」行き「区立美術館」下車
- タクシー：東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分